

vol.  
7

5月11日 目 **～光を求めて～**  
寺嶋陸也(ピアノ)

J.S.バッハ：イギリス組曲第6番 二短調 BWV811(1720年代)  
A.シェーンベルク：6つの小品 op.19(1911)  
岡田京子：挽歌  
F.シューベルト：ピアノソナタ 第17番 二長調 D.850(1825)

ワイマール、ケーテン、ライプチヒへと移動するバッハ。ウィーンからベルリンへ移るシェーンベルク。ウィーンからチロルの山岳地帯への演奏旅行のさなかに作曲されたシューベルトのソナタ。そこにアコーディオンを担いで日本中を音楽行脚する岡田京子の「挽歌」がどう重なるのか、いよいよシリーズ開幕!



寺嶋陸也

vol.  
8

5月12日 目 **～背徳と官能～**  
工藤あかね(ソプラノ) × 廻由美子(ピアノ)

A.シェーンベルク：「ブレットル・リーダー」(1901)  
A.シェーンベルク：「月に憑かれたピエロ」(1912) (エルヴィン・シュタインによるピアノ・リダクション版)

「道化」「官能」「俗」が渦巻くベルリンのキャバレー「ユーパー・ブレットル」での座付作曲家の経験は、その後の「ピエロ」へどう反映されていったのか。



工藤あかね



廻由美子

vol.  
9

7月6日 目 **～カバレット!笑いと抵抗の文化・ホルンダーと林光～**  
HISASHI(ヴォーカル) × 廻由美子(ピアノ)

F.ホルンダー：カバレット・ソング(1919～)  
林光：「行ってしまったあんた」「舟唄」「雨に濡れた木馬」他(1960年代～)

1920年代ベルリンのキャバレー・シーンを席捲したフレデリック・ホルンダーをHISASHI自ら訳した日本語詩で、そして林光はソングなどをあつめて様々なアレンジ。笑いは最高の武器!



HISASHI

vol.  
10

8月4日 目 **レクチャー・コンサート～エルヴィン・シュルホフとシェーンベルク～**  
松崎愛(レクチャー、ピアノ) 共演:廻由美子(ピアノ)

A.シェーンベルク：3つのピアノ曲 Op.11(1909)  
E.シュルホフ：パルティータ(1922)  
E.シュルホフ：皮肉～ピアノ連弾のための～ Op.34(1920)

生誕130年のシュルホフ、20歳年長のシェーンベルク。2人の関係から時代を見る!第1次世界大戦を挟み、価値観はどう変わったのだろうか。



松崎愛



中川賢一

vol.  
11

11月24日 目 **～失われた楽園を求めて～**  
工藤あかね(ソプラノ) × 廻由美子(ピアノ)

E.シュルホフ：5つの歌 作品32(1919)  
A.ツェムリンスキー：12の歌曲 作品27より8番～12番(1937～38)  
A.シェーンベルク：「架空庭園の書」(1908～1909)

変容していくヨーロッパ。「ここではない何処か」に思いを馳せる芸術家たち。第1次世界大戦前後のシェーンベルクとシュルホフ、第2次大戦前夜のツェムリンスキー。



石上真由子

vol.  
12

12月1日 目 **～洪水の前に～**  
中川賢一 × 石上真由子 × マルモ・ササキ  
(ピアノ) (ヴァイオリン) (チェロ)

R.ワーグナー：「トリスタンとイゾルデ」(1859)より “前奏曲と愛の死”(ピアノ・ソロ)  
C.ドビュッシー：「牧神の午後への前奏曲」(1894) (ピアノ・ソロ)  
A.シェーンベルク：「浄夜」(1899) (ピアノトリオ)

世界大戦の20世紀へと突入する前夜、最後の芳香を放つ爛熟の文化。崩壊してゆく調性は、何を予言していたのだろうか。



マルモ・ササキ